

## インフルエンザの特徴（いわゆる風邪との違い）

	かぜ（普通感冒）	インフルエンザ
発症時期	1年を通じ散発的	冬季に流行
主な症状	上気道症状	全身症状
症状の進行	緩徐	急激
発熱	通常は微熱(37~38℃)	高熱(38℃以上)
主症状(発熱以外)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● くしゃみ</li> <li>● 喉の痛み</li> <li>● 鼻水、鼻づまり など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 咳 ● 喉の痛み ● 鼻水</li> <li>● 全身倦怠感、食欲不振</li> <li>● 関節痛、筋肉痛、頭痛 など</li> </ul>
原因ウイルス	ライノウイルス、コロナウイルス、アデノウイルス など	インフルエンザウイルス

咳くしゃみによる  
感染力強い!!!

ここで薬を使用すると効果的！



## 症状が出たら、(熱が出たら) いつ受診すればよいのでしょうか？

発熱してから約 8~12 時間経過していれば検査ができますが、あまり受診のタイミングが早いと診断できない場合もあります。発熱の翌日が良いタイミングかもしれません。

## 投薬のタイミングは？どんな薬があるのでしょうか？

症状が出始めてから 48~72 時間で体内ウイルス量がピークとなるため 48 時間以内に抗ウイルス薬を開始すると効果的と言われています。効果としては発熱期間 1-2 日間短くなると言われています。

- 薬の種類には
- 点滴 ラピアクタ (1回で終了)
  - 内服薬 タミフル (1日2回5日間服用) ゾフルーザ (1回服用 年齢体重別用法あり)
  - 吸入薬 リレンザ (1日2回5日間服用) イナビル (10歳未満1吸入、10歳以上2吸入)

## インフルエンザの予防接種はしたほうがいいですか？

予防接種後 2 週間くらいで抗体が増え、約 3~5 カ月持続しその後低下すると言われています。予防接種はインフルエンザの発症を 50% 低下させるといわれ、感染した場合にも抗体により合併症 (肺炎、脳症の重症化) の予防に有効とされています。65 歳以上の高齢者、慢性疾患の病气 (糖尿病など) のある方、気管支喘息をもつ小児は重症化を防ぐために予防接種をしたほうがいいと言われています。接種の際はかかりつけ医に相談しましょう。

## インフルエンザに感染したら・・・？

発症後 5 日間かつ解熱後 2 日間はまだ感染力があるとされています。発症した日から考えると、6 日間の自宅安静が必要とされているため、なるべく外出を避け感染させないように過ごしましょう

看護師 北原 文責 糖尿病専門医 高部